

自分にできること

2024. 9. 25

中学生の職場体験や大学生の教育実習に感化されたのか、働くということについて考えてみた。子どもたちは、小学生のうちから、働くことや仕事について学んできている。では、仕事にできそうな好きなことは見つかっているのだろうか。そもそも、自分は何が好きなのがわかっているのだろうか。自分の好きなことや夢中になれることが見つければいいが、多くの人がそうではないように思う。

できる仕事と好きな仕事は違うという話がある。洋服でも自分が好きなものと似合うものが違うことがある。それと同じように、仕事でも、できることと好きなことが違うことがあるのではないか。そうであれば、好きなことを探すのではなく、自分ができることを好きになる努力をしてはどうだろうか。

「ピーターパン」の作者であるイギリスの劇作家ジェームス・マシュー・バリーが、「幸福の秘訣は、自分がやりたいことをするのではなく、自分がやるべきことを好きになることだ」と言っている。

努力をせずに、自分の好きなことはどこにあるのだろうかというのは、実は、好きを探しているのではなく、楽を探していることになるのかもしれない。社会は、そんなに甘くはないため、自分がやるべきことを好きになれるよう勉強したり、自分に向いていると思うことを仕事にしたりしていくことがシンプルでいいのかもしれない。

自分に向いていることを探すためのよい方法が、子どもの頃に人から褒められたものに立ち返ることである。人は、それぞれに才能があり、それは同じ親から生まれた兄弟であっても違うものである。子どもの頃に、親や友達、先生から褒められたこと、頼りにされたこと、クラスで任されたことなどはないだろうか。

人は、まわりから褒められると、それが自信になる。まわりとの気持ちが循環しないと、人は、これが好きとは認識しにくいものである。嫌いだったことも、あなたがやると違うなどと言われたら、好きになってしまうかもしれない。

まずは、自分が動いたことで喜んでもらえた経験に立ち返って、それを書き出してみる。そうすると、私はこれをしているときが心地いいんだ、これがまわりに求められていることなんだというものが見えてくる。

自分にできることは何だろうか。考えが堂々巡りの状態になっている人は、ちょっと視点を変えてみてはどうだろうか。意外とよい方向に向かうかもしれない。今まで考え悩んできた時間は、決して無駄ではない。